病歴と図書と……

杉本重子
（大和郡山総合病院医学資料室）

当協議会が設立15周年を迎え、会員の一人として大変嬉しく思います。

私が医学資料室に勤務してから早や二十余年が経ちました。当初病歴管理業務に携わり唯々暗中模索のうちに過ごしておりましたが、昭和41年に厚生省病院管理研究所の病歴管理専攻科課程を終了し、やっとおぼろげながら手がかりらしきものをつかんだような気がしました。その頃大阪逓信病院からの呼びかけがあり、昭和42年に本当に十数名のささやかな近畿病歴管理セミナーが発足しました。その後、会員病院も百余病院と発展し、現在に至っております。このセミナー発足から数年後に近畿病院図書室協議会が発足し、この会にも早速入会させていただきました。

この二つの会を比較してみますと、病歴管理セミナーの方はやはり病歴管理という特殊性から管理職や医師の参加と指導があり、担当者の私達は多かれ少なかれその方達にオンブにダッコの感がなきにしもあらずでした。しかし、病図協の方は完全に病院司書の方達の自立した集まりで、何もかも諸兄姉の創意と努力により出発し、継承されてきたように思います。ここにめでたく15周年を迎えることができ、これまでの役員の方たちのご努力とその実績に敬意と拍手をお送りいたします。

私の所属する病院は図書・病歴を医学資料室として診療協助部門の一部署として位置づけておりますので、当然私も病歴と図書を兼務しているわけですが、この仕事は院内の多くの部門の人達との接触があるにもかかわらず、業務内容は独立し、院内他科からの影響と指導を受けることができにくい職種です。従って、自己啓発のためにもこの会は無くてはならない集まりとなって今日まで続いてきたのだと思います。

私は、この会に参加することによって種々な専門知識と経験による智恵を教えていただきました。しかし、この会を通して得た何より一番大切なものは皆様方との出会いなのです。この会の今後の発展を祈りつつ、この会を大切にしたい一人として、皆様方と共に歩ませていただきたいと思っています。

専門分野を生かした相互協力

小山弘子
（田中外科病院図書室）

当病院はベッド数52床の消化器外科専門の単科病院です。常勤医４名、看護婦21名、パラメディカル他24名と協議会に加盟している病院の中では一番小さい個人病院です。

したがって、図書室も小さく、院長室と併用されています。図書室の床面積は29㎡、書庫は15㎡です。スペースがないため、全蔵書を収容できず院外に倉庫を借りて古い図書や雑誌類を預けています。雑誌受け入れタイトル数は和雑誌42、洋雑誌10、蔵書は和書約800冊、洋書約80冊、製本雑誌約800冊です。

当協議会に入会させていただいたのはもう随分前のことで、何分にも小規模な図書室ですので文献入手に困っていましたところ、ある方から協議会の存在を教えていただき、早速入会いたしました。入会後は文献入手に際し、会員の皆様には大変お世話になっております。電話でお願いすると、翌日にはもう文献が届き、ドクターからも大変喜ばれております。

入会時にはただただ皆様のお世話になるばかりと思っていましたが、私のところのような小さな図書室にも文献依頼がかなり来るのには驚いています。受付件数の推移は昭和60年度には75件、61年度75件、62年度54件、63年度49件、平成元年度63件でした。数としてはそう多くはありませんが、当院の専門分野である消化器関係の資料がバックナンバーも含めてかなり揃っていますので、利用していただけるのだと思います。「頼りにしています」とか、「よく揃っているので有難い」というような声を聞きますと、協議会の一員として何とかお役に立っているのだなと嬉しく思います。

どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。